

# “世界との関係ご破算”の深刻さ

## 安倍首相の「ポツダム宣言読んでない」 党首討論 国内外に衝撃

「実に危険な政権だ」「これは国際的な大問題だ」戦争法案の成立を狙う安倍晋三首相の歴史認識を追及した日本共産党の志位和夫委員長の党首討論(5月20日)が国内外で衝撃を広がっています。安倍首相が志位氏の追及に対し、戦後日本の原点となった「ポツダム宣言」(1945年7月26日)を「つまびらかに読んでおらず、承知していない」と述べ、過去の日本の戦争を「間違った戦争」と認めなかつ

たからです。海外紙も報道し、ネットでの再生回数は、5月22日までに4万回近くにのぼっています。

**ポツダム宣言**  
日本降伏のため確定条項宣言 ポツダムにて 1945年7月26日発出

志位委員長が党首討論で引用した『ポツダム宣言』の第6項と第8項の全文は次の通り

(6) 吾等八無責任ナル軍国主義ガ世界ヨリ駆逐セラルルニ至ル迄八平和、安全及正義ノ新秩序ガ生ジ得ザルコトヲ主張スルモノナルヲ以テ日本国民ヲ欺瞞シ之ヲシテ世界征服ノ挙ニ出ヅルノ過誤ヲ犯サシメタル者ノ権力及勢力ハ永久ニ除去セラレザルベカラズ

(8) 「カイロ」宣言ノ条項八履行セラルベク又日本国ノ主権八本州、北海道、九州及四国竝ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限セラルベシ

### 山村に燈った灯

北上太郎  
帰郷編(一) 77

「このまま、つれて帰ろうか」と何度も思い、愛おしさに血の気が与奪時間。それが凍りつくように、重たさを増す。ひとつひとつを目に焼き付けた。

「お待たせしました。幸せ色ケーキは、私からのプレゼント!」



サイの花々をゆらす風をかすかに感じた。時折通る見舞い客らしい人々も、ただうつつむくばかりの二人をいたわるように足音を消して、しかし足早に過ぎ去る。二人はそろって、「白いブランコ」を静かに口ずさんだ。なつかしいフォークソングの調べである。

明るいマスターの声に、二人の思いは、さえぎられたが、しかし、その思いやりのケーキには、そろって心をこめた言葉を述べた。思いの募る二人は、その「茶店」(サテン)をあとにしたが、やはり、外泊許可の深い訳が、重くてやりきれない。徹夫は、黙って佐織の手を握り、途中の神社に、少し遠回りだが立ち寄りとうと思い、静かに歩いた。

「ねえ。勇気出して、ドクターに許可とって、久しぶりに外食しない?」

## ポツダム宣言「本当に読んでないようだ」

「事実誤認がある。本当に読んでいなかったことがうかがえる」。共産党の志位和夫委員長は21日の記者会見で、安倍晋三首相が20日の党首討論の際、第2次世界大戦で米・英・中の三国が日本に降伏を勧告したポツダム宣言を「つまびらかに読んでいない」と答弁したことについて、こんな皮肉を飛ばした。

志位氏は、自民党幹事長代理だった首相が月刊誌「Voice」2005年7月号の対談で、「ポツダム宣言というのは、米国が原子爆弾を二発も落として日本に大変な惨状を与えた後、『つた』とばかり(に)たたきつけたものだ」と語っていたと指摘。だが、宣言は1945年7

## 志位氏、首相の「誤認」指摘

月26日に米英中の名で発表され、同日8月6日に原爆投下後、日本が同日に受諾を決定した。志位氏は「(宣言は)二つ原爆が落ちた後に『たたきつけられた』ものではない。事実誤認がある」と述べた。

20日の党首討論では、志位氏がポツダム宣言について「日本の戦争について世界征服のための戦争であったと明瞭に判定している。総理はこのポツダム宣言の誤認を認めないのか」と質問。首相は返答せず、「その部分をつまびらかに読んでいないので、直ちに論評することは差し控えたい。先の大戦の痛切な反省によって今日の歩みがある」と述べた。

朝日新聞5月22日付に掲載された記事



釜石市は、1945年7月14日と8月9日に、米英艦隊による2度の艦砲射撃を受け、大きな被害を受けた。